

一般教育プログラムで身につけることができる能力

数理・データサイエンス教育研究センター

一般教育プログラムでは、文理を問わず、数理・データサイエンスの基本となる一般的素養を身につけることができます。具体的には、モデルカリキュラムⁱで示されているコア学修項目である次の学修項目1～3の内容を修得することができます。

学修項目1. 社会におけるデータ・AI 利活用

- ・社会で起きている変化
- ・社会で活用されているデータ
- ・データ・AI の活用領域
- ・データ・AI の活用領域
- ・データ・AI 利活用の現場
- ・データ・AI 利活用の最新動向

学修項目2. データリテラシー

- ・データを読む
- ・データを説明する
- ・データを扱う

学修項目3. データ・AI 利活用における留意事項

- ・データ・AI 利活用における留意事項
- ・データを守る上での留意事項

一般教育プログラムの修了要件は、所定の授業科目（9科目）を履修し、合計4単位以上を修得することとしています。

そのうち、「情報学Ⅰ」は必修であり、この学修内容が、上に挙げた全ての項目に対して網羅的に対応しています。すなわち、一般教育プログラムの修了者は、上に上げた全ての学修内容を習得することになります。

これらの項目に加えて、情報学Ⅱ及び数学や統計学は、モデルカリキュラムの選択学修項目の修得につながりますので、積極的に受講しましょう。

ⁱ 数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）モデルカリキュラム

～データ思考の涵養～, http://www.mi.u-tokyo.ac.jp/consortium/model_literacy.html